

## 液晶プロジェクション映像機器の台頭

Growth of LCD Projection Equipment and Systems



牧野 進一  
Shin'ichi Makino

マルチメディア時代を迎えて、テレビジョンの分野でもさまざまな新しさを提案する動きが顕著になってきました。大きな動向として、テレビジョンとコンピュータの融合が巷(こう)間に広く膾炙(かいしゃ)されてきています。

表示デバイスとしてもっとも普通に使われていたのはブラウン管です。テレビジョン映像のディスプレイとしてもっとも親しまれていましたし、年ごとに性能も磨き込まれてきました。明るさと解像度が目覚ましく発達して、表示デバイスの王座の地位を揺るぎないものとしてきました。コンピュータの発達に伴い、ブラウン管方式のディスプレイもコンピュータの微細な情報画面を表示するために広く使われてきています。そして今やハイビジョンを超える、細かい情報画面を表示するために使われてきています。

しかし、今、これらの表示デバイスに革命が始まっています。それは液晶表示デバイスを使用した直視型ディスプレイと、小さな液晶表示デバイスを用いてコスト効果を上げようとしている液晶プロジェクションディスプレイ、さらには、薄型大画面で壁掛けテレビをみぞすプラズマディスプレイなどの、より薄いディスプレイをみぞした革命のことです。

液晶ディスプレイは、今まで、明るさや、精細度を向上させるために高いコストが掛かってしまいました。今や技

術の進歩に伴い、これらの諸問題は解決しつつあります。民生用のディスプレイに大型の画面を表示できる液晶方式が導入されてきました。

また、液晶ディスプレイに特長的な表示も可能です。特にコンピュータ画面情報表示では、液晶ディスプレイは通常テレビ表示時のブラウン管ディスプレイのインタレース方式にともすると見られる表示障害も少なく、詳細情報表示には適した方式であると言えます。これらの特長を活用して、業務用のデータプロジェクタは最近に至って大変進んできています。ブラウン管方式でも最高級の精細度を与える1,200×1,000画素程度の表示も可能になっており、精彩度と明るさで、ブラウン管方式と遜色がない程度になってきています。先に触れたように、ブラウン管方式に比べて圧倒的に小型化が可能になり、持運びにも便利になってきました。このように、これからの発展に期待がもたれることから、将来の有望なディスプレイとして考えられています。

この特集では、液晶ディスプレイの技術を総合的に解説しています。新しく開発されてきたポリシリコン技術も大変に期待されています。今後とも発展する薄型、あるいは小型ディスプレイに期待される液晶プロジェクション技術をぜひともご注目いただきたいと思います。